

## 幾何学概論第二 定期試験 パート A [問題 1]

### 注意事項

- 解答は、すでに配布している所定の解答用紙の所定の欄に、採点者が読みとり、理解できるように書いてください。
- 答えは T2SchoLa の課題「定期試験パート A」に提出してください。提出締切は 11 時 30 分 JST。
- 試験中の質問などは Zoom のチャットをお願いします。
- 採点結果は 2 月 4 日までにお知らせします。
- 採点に関する質問・クレームなどは 2021 年 2 月 12 日まで山田まで電子メールにてお申し出ください。上記期日以降のクレームは、たとえこちらの採点に不備があったとしても受け付けません。ご了承下さい。

テキスト・ノート・参考書などの参照可。外部との通信不可

**問題 A1** 領域  $U \subset \mathbb{R}^2$  で定義された正則曲面  $p: U \rightarrow \mathbb{R}^3$  の第一基本形式  $ds^2$  と、単位法線ベクトル場  $\nu$  に関する第二基本形式  $II$  が、 $U$  の座標  $(u, v)$  を用いて

$$ds^2 = E du^2 + G dv^2, \quad II = \lambda E du^2 + \mu G dv^2$$

と表されているとする。ただし  $\lambda, \mu$  は  $U$  上の  $C^\infty$ -級関数で  $0 < \lambda(u, v) < \mu(u, v)$  を  $U$  上で満たしているものとする。このとき、

$$q(u, v) := p(u, v) + \frac{1}{\lambda(u, v)} \nu(u, v)$$

で定まる曲面が  $(u_0, v_0)$  に特異点をもつための  $\lambda$  の条件を求めなさい。

**問題 A2** 単連結領域  $U \subset \mathbb{R}^2$  で定義された正則曲面  $p: U \rightarrow \mathbb{R}^3$  の Gauss 曲率  $K$  が  $U$  上いたるところで零でないとする。さらに  $p$  の第一基本形式  $ds^2$  と、単位法線ベクトル場  $\nu$  に関する第二基本形式  $II$  が、 $U$  の座標  $(u, v)$  を用いて

$$ds^2 = E du^2 + 2F du dv + G dv^2, \quad II = L du^2 + 2M du dv + N dv^2$$

と表されているとする。このとき、第一基本形式  $d\tilde{s}^2$ 、第二基本形式  $\tilde{II}$  が

$$d\tilde{s}^2 = ds^2, \quad \tilde{II} = 2L du^2 + 2(2M) du dv + N dv^2 = 2II$$

となるような曲面  $q: U \rightarrow \mathbb{R}^3$  は存在するか、理由をつけて答えなさい。

学籍番号：80709946

氏名：山田光太郎

提出物の成績：0

幾何学概論第二 定期試験 パートA〔解答例1〕

問題 A1 Weingarten 行列  $A$  は

$$A = \begin{pmatrix} E & 0 \\ 0 & G \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} \lambda E & 0 \\ 0 & \mu G \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \lambda & 0 \\ 0 & \mu \end{pmatrix}$$

なので, Weingarten の公式から

$$\nu_u = -\lambda p_u, \quad \nu_v = -\mu p_v.$$

したがって

$$q_u = p_u + \frac{\lambda_u}{\lambda} \nu - p_u = \frac{\lambda_u}{\lambda} \nu, \quad q_v = \left(1 - \frac{\mu}{\lambda}\right) p_v + \frac{\lambda_v}{\lambda} \nu$$

である.  $1 - \mu/\lambda \neq 0$ ,  $p_v$  と  $\nu$  は一次独立であるから,  $q_u$  と  $q_v$  が  $(u_0, v_0)$  で一次従属であるための必要十分条件は  $\lambda_u(u_0, v_0) = 0$  である.

問題 A2  $p$  と  $q$  の第一基本形式は一致するので, Gauss の驚異の定理より Gauss 曲率は一致する. これを  $K$  と書くと, Gauss の方程式から

$$K = \frac{LN - M^2}{EG - F^2}, \quad K = \frac{(2L)(2N) - (2M)^2}{EG - F^2} = 4 \frac{LN - M^2}{EG - F^2}$$

が成り立たなければならない.  $K \neq 0$  からこれは不可能なので, 条件を満たす曲面  $q$  は存在しない.